

令和3年度

館 報 21

発刊にあたって

館報第21号

令和3年度も世界的な新型コロナウィルス感染症の拡大下で迎えました。当館でも徹底した感染拡大防止策を講じた上で開館したものの、予定していたいくつかの事業は中止せざるをえませんでした。このような状況でしたが企画展については、2回開催することができました。

第1回企画展は、銭形平次捕物控発表90年記念企画展とし、「平次誕生の一年~その男、苦み走った好い男~」を開催しました。「銭形平次捕物控」の作品数は長短編あわせて383編にもおよびますが、今回は平次が誕生した昭和6年とその前後の執筆活動に焦点をあて、紹介しました。また、昭和6年4月から昭和7年3月の『文藝春秋オール讀物號』に掲載された作品第1話から12話までのあらすじと特徴も紹介しました。

第2回企画展では、「胡堂の娘 瓊子~瓊子の生涯と作品~」を開催しました。 瓊子の短くも強く生きた生涯の紹介や、作品のあらすじや登場人物を紹介するパネル を展示し、見学の皆さんが作品に興味を持ってくださるよう展示を工夫しました。

さらに特別企画として令和2年春に放送されたアニメ「啄木鳥探偵處」にちなみ、石川啄木記念館、盛岡市先人記念館、盛岡てがみ館と当館の4館で、スタンプラリーを開催しました。コロナ禍で1年越しの開催となりましたが、県内外から多くの参加者があり、当館を知っていただく良い機会になりました。

そのほかにもレコードコンサート・文章講座・胡堂塾・朗読会等、幅広い年代の 方々に「胡堂・あらえびす」の業績をはじめ芸術文化にふれる機会を提供してまい りました。どの事業も例年と同様に実施することは難しく、さまざまな工夫ととも に、ご参加の皆様にも協力をお願いいたしました。

今後も当館が調査・研究の場、児童・生徒の皆さんの学びの場、芸術文化にふれる場、憩いのひとときを過ごす場として、多くの方々が利用してくださいますよう努めてまいります。

令和4年7月

野村胡堂・あらえびす記念館館 長 岩 崎 雅 司

目 次

発刊にあたって

1	施設の概要・沿革	1
2	令和3年度事業実績	
	(1) 講座・塾 (あらえびす文章講座・胡堂講座・胡堂塾)	2
	(2) あらえびすレコードコンサート (名曲喫茶・出張)	2
	(3) あらえびすレコード定期コンサート	3
	(4) 企画展	
	第1回「銭形平次捕物控発表90年記念企画展 平次誕生の一年	
	~その男、苦み走った好い男~」	5
	第2回「胡堂の娘 瓊子 ~瓊子の生涯と作品~」	11
	特別展「胡堂交友録~アニメ『啄木鳥探偵處』と	
	実在の文士たち~」	17
	(5) 4 館合同企画「啄木鳥探偵處」スタンプラリー in 岩手	18
	(6) 新型コロナウイルス感染症への対応	18
3	寄付者ご芳名	19
4	入館者・歳出・レファレンス及び収蔵資料利用	19
5	特定非営利活動法人野村胡堂・あらえびす記念館協力会	
	令和3年度主な自主事業実績	19
6	施設の利用案内	20

施設の概要・沿革

(1) 事業概要

基本構想完了平成4年 3月10日基本設計完了平成4年11月30日建築工事等着手平成5年12月17日建築工事完了平成6年11月28日工事等完了平成7年 3月28日

※一部展示工事等は平成7年5月20日

(2) 建物概要

敷地面積16,363.87㎡建築面積1,276.08㎡のべ床面積1,103.41㎡

(3) 施設概要

展示室 1 ホール 1 研究室 1 収蔵庫 3 ※ 図書室 1 読書室 1

※内1はレコード収蔵庫(平成24年3月完成)

(4) 工 事 費

基本設計	20,	085千円
用地測量、地質調査	3,	9 1 4 千円
実施設計・監理	49,	337千円
建築工事	428,	480千円
駐車場整備	7,	210千円
電気設備	54,	487千円
機械設備	70,	761千円
一般・映像展示	53,	355千円
案内標識、その他	16,	213千円
植栽(かたくりの丘含む)	16,	318千円
合計	720,	160千円

(5) 設計監理

基本設計 監修:吉武泰水

製作:工藤卓、株式会社ディーシー

実施設計・監理 株式会社ディーシー

建築(駐車場含) 株式会社銭高組·株式会社小松組JV

電気設備 岩舘電気株式会社 機械設備 岩手水道土木株式会社 むつみ造園土木株式会社

一般展示 日精株式会社 映像展示 コセキ株式会社 測量地質調査 東開技術株式会社

地権者 佐藤豊 佐藤昇 橋本武三 三浦章

(沿 革)

年 月	事 項
昭和62年12月	野村胡堂顕彰施設建設懇談会開催(於: 彦部地区)。胡堂顕彰施設建設に向けた 組織作りが始まる。また、彦部地区野村 胡堂顕彰会が発足。
昭和63年12月	東京高田馬場「喫茶あらえびす」馬淵巳 三子氏よりレコードの寄贈受け、第1回 あらえびすレコードコンサートを開催、 以後定期的にレコードコンサート開催。
平成元年 7月	在京関係者と町関係者による野村胡堂・ あらえびす顕彰懇談会開催(於:東京上野)

年月	事項
	野村胡堂の顕彰に係る懇談会を開催し、
平成 2年 1月	野村胡堂顕彰委員会設立の検討に入る。
平成 2年 9月	野村胡堂顕彰委員会の発足。以後同委員会を随時開催、顕彰施設の建設の検討に入る。
平成 2年12月	野村胡堂顕彰委員会と彦部地区野村胡 堂顕彰会が記念館建設について協議。
平成 3年 3月	彦部地区野村胡堂顕彰会が胡堂紹介パンフレット・小冊子作成、顕彰施設建設に向け活動する。
平成 4年 3月	野村胡堂記念館建設基本構想完成
平成 5年12月	野村胡堂記念館建築工事着工
平成 6年 6月	野村胡堂記念館開館準備室設置
平成 6年 7月	野村胡堂・あらえびす記念館開館準備実 行委員会が発足。以後開館に向け開催。
平成 6年 8月	東京都教育研究所と所蔵レコードに関 する協議。
平成 6年11月	野村胡堂・あらえびす記念館建築工事竣工
平成 7年 2月	東京都より野村レコード・コレクションの贈呈を受ける。
平成 7年 6月	野村胡堂・あらえびす記念館開館 第1回野村記念講座開催、以後定期的 に記念講座開催。
平成 7年11月	野村胡堂・あらえびす記念館協力会が 発足し、記念館管理運営へ協力開始。
平成 8年 4月	記念館受付・清掃業務を野村胡堂・あ らえびす記念館協力会へ委託。
平成 8年 5月	「第16回東北建築賞作品賞」受賞
平成 8年10月	開館1周年記念「銭形音楽会」開催
平成12年10月	「あらえびすSP名曲決定盤」CDに復刻
平成16年 4月	開館10周年記念収蔵展「挿絵展」開催
平成16年11月	開館10周年式典開催 『野村胡堂・あらえびす来簡集』発刊
平成19年 3月	「あらえびすSP名曲決定盤第Ⅱ集」完成
平成21年 6月	開館15周年記念コンサート「穐吉敏子& ルー・タバキンジャズコンサート」開催
平成 22 年 4月	野村胡堂・あらえびす記念館協力会が 特定非営利活動法人化する。同法人へ 記念館管理運営の一部を委託。
平成23年 1月	岡堂勝行氏より寄附金2000万円を受領
平成23年 4月	岡堂勝行氏よりレコード等約5000枚を受領
平成23年12月	レコード収蔵庫建築工事着工
平成24年 2月	「あらえびすレコード定期コンサート」 が第200回を迎える。
平成24年 3月	レコード収蔵庫完成
平成24年 6月	岡堂コレクションレコード収蔵庫竣工 式開催
平成24年10月	来館者25万人達成
平成26年 5月	『野村胡堂・あらえびす』発刊
平成26年 6月	開館20周年式典開催
平成28年 4月	指定管理者制度導入
令和元年 5月	来館者30万人達成
令和 2年 9月	「あらえびすレコード定期コンサート」 が第300回を迎える。

講座・塾

1 あらえびす文章講座

胡堂と同じ文筆家を目指す、または趣味のある方のために開催する講座です。

■エッセイ添削コース 講師:豊泉 豪氏(日本現代詩歌文学館学芸員) 全5回(令和3年5月27日~7月22日) 受講者11人

■小説コース 講師:平谷美樹氏(小説家) 全5回(令和3年6月5日~8月21日) 受講者18人

■脚本コース 講師: 道又 力氏(脚本家)全3回(令和3年11月6日~11月27日) 受講者7人

2 胡堂講座

■銭形平次捕物控朗読会 ~金色の處女~

今年は企画展の関連事業として『銭形平次捕物控』発表90年にちなみ、第1作目「金色の處女」 を朗読していただきました。

令和3年10月10日(日)

朗読:大塚 富夫氏(IBC岩手放送アナウンサー) 受講者36人

■胡堂生誕ギャラリートーク

令和3年10月15日(金)

講師: 当館学芸員 受講者32人

3 胡堂塾 ボランティアガイド養成講座

展示の詳しい解説やレコード鑑賞、生家見学を通して胡堂を身近に感じながら深く知る講座です。

講師:野村 晴一氏(胡堂の弟の孫)、当館館長、当館学芸員全5回(令和3年8月27日~10月8日) 受講者7人

あらえびすレコードコンサート

1 出張あらえびすSPレコードコンサート

盛岡市上田公民館から依頼をうけ、同館の芸術文化講座「知ると楽しいふか~い音楽講座」において、S P レコードコンサートを実施しました。このコンサートは、3回連続講座の第1回目を当館が担当し、「あらえびすを魅了した世界の名演奏家」をテーマに、当館所蔵のS P レコードを蓄音機で鑑賞しました。

令和3年11月27日(土)

会場:盛岡市上田公民館 受講者22人

解説:当館学芸員

2 名曲喫茶あらえびすSPレコードコンサート

「K子と野ばら」

今回は、第2回企画展「胡堂の娘 瓊子~瓊子の生涯と作品~」の関連事業として実施しました。瓊子が執筆した少女小説に多くのクラシック曲が登場することから、その場面を朗読し、ゆかりの曲をSPレコードで鑑賞しました。朗読は、紫波総合高等学校の3名にお願いしました。令和4年1月29日(土)

解説: 当館学芸員 入場者25人





あらえびすレコード定期コンサート

第306回 クラシック名盤『楽聖物語』51 4月18日(日) 幸福な天才 メンデルスゾーン 解説員: 侘美 淳

- ♪劇音楽『真夏の夜の夢』より「結婚行進曲」(指揮:ビーチャム ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団)
- ♪交響曲第3番 イ短調「スコットランド」(指揮:ワインガルトナー ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団)
- ♪ヴァイオリン協奏曲 ホ短調(ヴァイオリン: 庄司紗矢香 指揮:チョン・ミュンフン フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団)
- ♪交響曲第4番 イ長調「イタリア」(指揮:熊倉優 NHK交響楽団)

第307回 クラシック名盤『楽聖物語』52 5月16日(日) ピアノの詩人 ショパン 解説員: 侘美 淳

♪ポロネーズ 第3番 イ長調「軍隊」(ピアノ:パデレフスキー)

♪ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」(ピアノ:ホロヴィッツ)

♪バラード第1番 ロ短調(ピアノ:コルトー)

♪バラード第2番 ヘ長調(ピアノ:アシュケナージ)

♪バラード第3番 変イ長調(ピアノ:アシュケナージ)

♪バラード第4番 ヘ短調(ピアノ:アシュケナージ)

♪ピアノ協奏曲第2番 へ短調(ピアノ:マルタ・アルゲリッチ 指揮:シャルル・デュトワ シンフォニック・モントリアル)

第308回 クラシック名盤『楽聖物語』53 6月20日(日) 情熱のシューマン 解説員: 侘美 淳

♪ 『子どもの情景』(ピアノ:コルトー)

♪ピアノ協奏曲 イ短調

第1楽章(ピアノ:コルトー 指揮:ロナルド ロンドン・フィルハーモニック管弦楽団)

第2、3楽章(ピアノ:マルタ・アルゲリッチ 指揮:ニコラウス・アーノンクール ヨーロッパ室内管弦楽団)

♪交響曲第3番 ホ短調(指揮:デービット・ジンマン NHK交響楽団)

第309回 クラシック名盤『楽聖物語』54 7月17日(土) 孤独の哲人 ブラームス 解説員: 侘美 淳

♪ハンガリー舞曲 第1番(指揮:クラウス ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団)

♪ハンガリー舞曲 第5番、第6番(指揮:フィドラー ボストン・ポップス・オーケストラ)

♪ヴァイオリン協奏曲 ニ長調

第1楽章(ヴァイオリン:クライスラー 指揮:ブレッヒ ベルリン国立歌劇場管弦楽団)

第2、3楽章(ヴァイオリン:ハイフェッツ 指揮:クーゼヴィツキー ボストン交響楽団)

♪交響曲第4番 ホ短調(指揮:ブロムシュテット NHK交響楽団)

第310回 あらえびすのレコードコンサート 8月21日(土) 東京帝大編Vol.1 解説員:当館学芸員

♪フランク/交響的変奏曲(ピアノ:ギーゼキング 指揮:ウッド ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団)

♪サン=サーンス/組曲『動物の謝肉祭』(指揮:ストコフスキー フィラデルフィア交響楽団)

♪ビゼー/歌劇『カルメン』より「恋は野の鳥(ハバネラ)」(ソプラノ:ヴァラン)

♪フォーレ/『3つの歌』より第1曲「夢のあとに」(ソプラノ:ヴァラン)

第311回 クラシック名盤『楽聖物語』55 9月19日(日) 悲哀の権化 チャイコフスキー 解説員: 侘美 淳

♪弦楽セレナーデ ハ長調(指揮:メンゲルベルク アムステルダム・コンセルトへボウ管弦楽団)

- ♪バレエ組曲「白鳥の湖」から抜粋(指揮:ピエール・モントゥー、ロンドン交響楽団/英国ロイヤルバレエ団、 高田茜(主演)ほか
- ♪ヴァイオリン協奏曲 ニ長調(ヴァイオリン:樫本大進 指揮:セミョーン・ビシュコフ チェコ・フィルハーモニー管弦楽団)

第312回 あらえびすのレコードコンサート 10月17日(日) 東京帝大編Vol. 2 解説員: 当館学芸員

♪ D. スカルラッティ/チェンバロ・ソナタ 二長調* (チェンバロ:ルンドルフ・ドルメッチ)

♪ジョルダーニ/カロ・ミオ・ベン(愛しい私の恋人)(チェロ:ミッシャ・フォイアマン ピアノ:ミヒャエル・タウベ)

♪アルベニス/ニ長調『スペインの歌』より 第5曲「セギディーリャ」*(ピアノ:アルフレッド・コルトー)

♪ファリャ/バレエ音楽『恋は魔術師』* (メゾソプラノ:コンチータ・ベラスケス 指揮:エネスト・アルフテル セヴィリア・ベティック室内管弦楽団)

♪プッチーニ/歌劇『蝶々夫人』より「ある晴れた日に」(ソプラノ:三浦 環)

♪エルガー/行進曲第1番「威風堂々」(指揮:アーサー・フィドラー 演奏:ボストン・ポップス・オーケストラ)

★は、あらえびすが選曲したプログラムと曲目または演奏者が一致するもの。

第313回 クラシック名盤『楽聖物語』56 11月21日(日) ドヴォルザークの郷愁 解説員: 侘美 淳

♪スラヴ舞曲 第1集から第1番(ピアノ:ヘス&ハーティ)

♪スラヴ舞曲 第1集から第2番(ヴァイオリン:クライスラー ピアノ:ラムソン)

♪交響曲第8番 ト長調

第1楽章(指揮:ターリヒ チェコ・フィルハーモニー管弦楽団)

第2~4楽章(指揮:ドホナーニ クリーブランド管弦楽団)

♪交響曲第9番 ホ短調「新世界より」(指揮:原田慶太楼 NHK交響楽団)

第314回 クラシック名盤『楽聖物語』57 12月19日(日) クリスマスの前に… 解説員: 侘美 淳

♪パッヘルベル/カノン(指揮:ダイナー コレギウム・ムジーク・ストリングス)

♪ヘンデル/オラトリオ『メサイア』序曲、ハレルヤ・コーラス(指揮:ビーチャム ロイヤル・フィルハーモニー 管弦楽団)

♪ グルーバー/きよしこの夜 (ソプラノ:エルネスティーネ・シューマン=ハインク)

♪ラフマニノフ/ヴォカリーズ(指揮:ラフマニノフ フィラデルフィア管弦楽団)

♪モーツァルト/レクイエム(指揮:トン・コープマン NHK交響楽団)

胡堂のディスク・オルゴール〔明治40年ドイツ製〕

♪わたしは願う わたしの愛を伝える (メンデルスゾーン)

♪きよしこの夜 (讃美歌)

第315回 クラシック名盤『楽聖物語』58 1月16日(日) 協奏曲競演! 解説員: 侘美 淳

♪ショパン/ピアノ協奏曲第1番 ホ短調(ピアノ:ローゼンタール 指揮:ワイズマン グロッサム管弦楽団)

♪ブラームス/ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 第3楽章(ヴァイオリン:ティボー チェロ:カザルス 指揮:コルトー カザルス管弦楽団)

♪ロドリーゴ/アランフェス協奏曲(ギター:パブロ・サイエンス・ビジェンガヌ 指揮:キリス・ペトレンコベルリン・フィルハーモニー管弦楽団)

♪ガーシュイン/ラプソディー・イン・ブルー (ピアノ:反田恭平 指揮:原田慶太楼 NHK交響楽団)

第316回 クラシック名盤『楽聖物語』59 2月20日(日) 洋琴の巨匠リスト 解説員: 侘美 淳

珠玉のピアノ小品

♪慰め 第3番 変ニ長調(ピアノ:ルービンシュタイン)

♪愛の夢 第3番 変イ長調(ピアノ:バックハウス)

♪ポロネーズ 第2番 ホ長調(ピアノ:ラフマニノフ)

♪パガニーニ大練習曲 第3番 嬰ト短調「ラ・カンパネラ(鐘)」(ピアノ:レヴィッキ)

♪パガニーニ大練習曲 第5番 ホ長調「狩り」(ピアノ:ペトリ)

♪ハンガリー狂詩曲 第2番 嬰ハ短調(ピアノ:パデレフスキー)

♪ハンガリー狂詩曲 第2番 嬰ハ短調(指揮:ストコフスキー フィラデルフィア管弦楽団)

♪ピアノ協奏曲第2番 イ長調(ピアノ:アレッサンドロ・タヴェルナ 指揮:沼尻竜典 NHK交響楽団)

第317回 あらえびすのレコードコンサート 3月20日(日) 東京帝大編Vol. 3 解説員:当館学芸員

♪リムスキー=コルサコフ/歌劇『雪娘』より「軽業師の踊り」*(指揮:アンセルメ ロンドン交響楽団*)

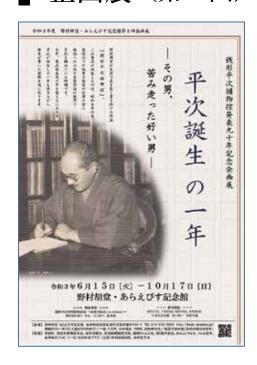
♪ストラヴィンスキー/バレエ音楽『ペトルーシュカ』* より抜粋(指揮:ストラヴィンスキー ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団)

♪プロコフィエフ/バレエ組曲『鋼鉄の歩み』*(指揮:コーツ* ロンドン交響楽団*)

♪古賀 政男/丘を越えて(歌唱:藤山一郎)

★は、あらえびすが選曲したプログラムと曲目または演奏者が一致するもの。

企画展(第1回)



銭形平次捕物控発表90年記念企画展 平次誕生の一年 ~その男、苦み走った好い男~

野村胡堂は、昭和6(1931)年に文藝春秋社の雑誌『オール讀物』に『銭形平次捕物控』を発表し、昭和32(1957)年に筆を擱くまでの27年で、全383編を書き上げた。作品は、雑誌連載中に舞台化、映画化された。胡堂の没後も、テレビドラマの放送により、「銭形平次」は今日まで長く愛され続けている。

この作品の第1作目「金色の處女」では、奇怪な事件を推理して犯人を追う探偵小説に仕上げられている。この作品以降一年の間に書かれた作品には、奇怪な要素が見受けられる。このことから、雑誌に連載し始めた頃の『銭形平次捕物控』は、これ以前に執筆した『奇談クラブ』等の奇怪小説からの流れのなかで誕生したと考えられる。

今回は、昭和初期の胡堂作品から『銭形平次捕物控』発表後の一年 に焦点をあて、胡堂が書いた捕物小説に迫った。

協 力 盛岡市先人記念館、株式会社錢高組 開催期間 6月15日(火)~10月17日(日) 108日間 入場者数 851人

来場者の声

- 野村胡堂のことはあまりよく知りませんでしたが、とてもおもしろかったです。
- (40代、女性)
- ・とても見やすく展示されていたので良かったです。初めて来ましたが野村胡堂についてとても知ることができ、 温かい人柄で好きになりました。家族とのエピソードなどもう少しお願いしたいです。 (40代、女性)
- ・横溝正史の書簡が見られるとは思っていませんでした。

(30代、男性)

『文藝春秋オール讀物號』の誕生まで

『文藝春秋』は、大正12(1923)年に菊池覧によって創刊された。作家としても知られる菊池の自宅には、若い作家たちが出入りするようになり、雑誌『新思潮』『蜘蛛』の編集同人ら数名が集まり、新たに『文藝春秋』の前身といえる冊子を作った。当時の編集同人のひとりだった菅忠雄が、後の胡堂に銭形平次誕生のきっかけを与えることになる。

昭和3(1928)年に、これまで菊池の個人経営であった「文藝春秋」が株式会社となり、 経営を拡大し、昭和4(1929)年になると次々と新雑誌を出版していった。

昭和5(1930)年7月、雑誌『文藝春秋』の姉妹雑誌として『文藝春秋オール讀物號』が夏季向けの臨時増刊号として発行された。売れ行きが好調だったため、同年11月には第2回臨時増刊を発行。翌昭和6(1931)年4月から月刊誌となり、ここに『銭形平次捕物控』が誕生する。



『文藝春秋三十五年史稿』 昭和34年4月8日発行 文藝春秋社

新聞記者から大衆作家・野村胡堂へ

胡堂は、明治45(1912)年5月報知新聞社に入社した。大正3(1914)年、新米記者の胡堂が執筆した人物評論の書籍化がもとで、一時、執筆停止処分が下るが、その後は地道に勤め続けた。

大正9 (1920) 年に社会部長に就くと、報知新聞にだけ長編を書くことが許され、はじめは科学小説『二万年前』を 報知新聞紙上に連載した。

大正11(1922)年頃から「あらえびす」の名で、美術や演奏会の評論を書き、大正13(1924)年からは、本格的に音楽コラムの連載が始まった。この年、胡堂は編集相談役となり自身の執筆活動に専念するようになった。

2

昭和2(1927)年になり、社主の三木善八から編集長の高田知一郎を通して、小説の執筆命令が出され書いた作品が 『奇談クラブ』である。報知新聞に連載されると、読者に好評だったため、昭和6 (1931) 年に書籍として出版した。 すぐに重版がかかり、これが胡堂の出世作となる。

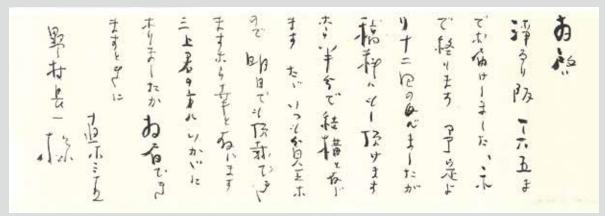
昭和初期は、新聞編集側の仕事に加え、自身の執筆活動が盛んになっていく。昭和4~5(1929~30)年に、博文 館の雑誌『文藝倶楽部』の編集をしていた横溝正史から、胡堂に執筆依頼があり、小説を執筆している。当館所蔵の書 簡によると、胡堂はそれぞれの執筆依頼に対し、探偵小説と怪奇小説を執筆している。依頼には『奇談クラブ』のよう なものを希望すると書かれており、横溝は胡堂の『奇談クラブ』を評価していたことが伺える。「踊る美人像」「悪魔の 顔」の名探偵花房一郎は、シリーズものとして、さまざまな雑誌に掲載された。

報知新聞紙上には、昭和2(1927)年8月から『奇談クラブ』を、昭和3(1928)年7月から『美男狩』、昭和5(1930) 年10月から『身代り紋三』を連載。いずれも連載終了後に書籍化された。『奇談クラブ』は刊行後まもなく重版がかか るほど好評だった。『身代り紋三』は、現代大衆文学全集続15巻野村胡堂集に収録され出版された。

胡堂は、『奇談クラブ』の評価により、大衆作家としての自覚が芽生えた。また、『身代り紋三』が現代大衆文学全集 に収められたことで、文学界からも大衆文学作家として認められた。

直木三十五(1891-1934)は小説家でありながら、脚本家、映画監督としても広く活躍した。親交が深かった文 藝春秋社社長の菊池寛は、43歳でこの世を去った彼を称え、昭和10(1935)年に「直木賞」を創設した。 代表作に 『由 比根元大殺記』『南国太平記』など。

書簡は、直木が報知新聞に連載していた「仇討浄瑠璃坂」の原稿165話(最終話)までを、胡堂へ届けた際に添え た書簡と思われる。原稿料は半分で構わないが、明日にでも欲しいと書き添えている。



直木三十五書簡 野村胡堂宛 年月日不明

加藤武雄(1888-1956)は大正から昭和初期にかけて活躍した小説家。昭和6(1931)年創刊の『文藝春秋 オー ル讀物號』創刊号には、胡堂と名を連ねて作品を掲載している。代表作に『祭の夜の出来事』『土を離れて』など。 書簡には、胡堂から原稿執筆の依頼があったことを伺わせる記述があるが、加藤自身は次の機会にして欲しいと断っ ている。一方で文末には、加藤が胡堂に自分が編集している雑誌への執筆依頼をしている。当時、胡堂と加藤が編集 者と作家、双方の立場にいたことが分かる資料である。







加藤武雄書簡 野村胡堂宛 昭和6(1931)年8月27日付

横溝正史(1902-1981)は大正期に小説執筆をはじめ、雑誌編集の仕事を経て職業作家となった。博文館から刊行 される雑誌の編集に携わっていたときには、胡堂に探偵小説の執筆を依頼していた。昭和23(1948)年、金田一耕 助が初登場する『本陣殺人事件』により第1回探偵作家クラブ賞(後の日本推理作家協会賞)を受賞し、その後も金 田一耕助シリーズは人気を博した。

また、昭和24(1949)年に発足し、野村胡堂が会長を務めた「捕物作家クラブ」の会員でもあり、横溝も捕物小 説『人形佐七捕物帳』を執筆している。









横溝正史書簡 野村胡堂宛 昭和5(1930)年3月23日付





新聞記者の干種十次郎と部下の早坂勇が 追っている密室殺人事件を、刑事で名探偵 と呼ばれる花房一郎が鮮やかに解決する。

『文藝倶楽部』 6月号 野村胡堂「踊る美人像」 昭和5(1930)年6月1日発行 博文館





野村胡堂著 『現代大衆文学全集 続十五巻 野村胡堂集 身代り紋三』 昭和6(1931)年4月1日発行 平凡社

現代大衆文学全集 は序文とい 続十五 うもの 巻

ほんの少しばかり出来の良いお手習草紙に過ぎないのだ。 何は兎もあ 張り切った愉快な心持で書き続けたい、これは私に取っては、張り切った愉快な心持で書き続けた。 私はまだ作家としては若いんだから、そんな事は忘れ れこの小説は相当に面白く書けた積りだ、 を 書く 0 が 好きだ— 欠点は

あるが、

昭和六年九月

鎌倉の山荘から、

七里ヶ浜を眺

めて

野

村

胡堂

現代大衆文学全集 続十五巻

野村胡堂集

身代り紋三』

私は序文というものを

書くのが好きだ―」より抜粋

野村胡堂著『奇談クラブ』 昭和6(1931)年2月25日発行 (再販) 四條書院

載して、思いもよらぬ好評を博し、それから妙に自信らしいものがその時書いたのが、この「奇談クラブ」で、当時報知新聞の朝刊に 昭和六年二月

刊に連

いて、次第に深みへ入り込むということになってしまったわけです。 鎌倉の山住居で 『奇談クラブ』序より抜粋 野村 胡 堂

知一郎氏に勧められて、て居た私が、今から三年 気になったのです。 長い間新聞記者生活をして、 今から三年何ヶ月か前、 はじめて大衆文芸というものを書いて見る 纏りの 時の報知新聞編集局長、 な ものば かりを書き散 高たら 田だし

『奇談クラブ』

『銭形平次捕物控』の誕生

「銭形平次」誕生秘話は、『胡堂百話』など多くの随筆で語られている。

昭和6年(1931)、文藝春秋社が新しく創刊する雑誌『文藝春秋オール讀物號』編集長の菅忠雄が、報知新聞社に胡 堂を訪ねてきた。岡本綺堂の『半七捕物帳』のような作品を書いて欲しいとの依頼で、胡堂は乗り気になって返事をし たという。胡堂は探偵小説的なものを目指しており、書き始めた頃の作品を、大袈裟な道具立てと怪奇な筋、物々しい 身振りで読者を驚かそうとしたと語る。

『文藝春秋オール讀物號』創刊号には、直木三十五、吉川英治、佐々木味津三、加藤武雄、菊池寛ら当時の一流作家 の小説とともに、野村胡堂の『銭形平次捕物控』が掲載された。

昭和6 (1931)年に発表した作品のなかでも、胡堂の長男一彦が推薦した作品「振袖源太」「七人の花嫁」 「復讐鬼の姿」 (映画題名「復讐鬼」)」が『文藝春秋オール讀物號』掲載後間もなく映画化されている。



『銭形平次捕物控』第1作「金色の處女」 『文藝春秋オール讀物』昭和6年4月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第2作「振袖源太」 『文藝春秋オール讀物』昭和6年5月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第3作「大盗懺悔」 『文藝春秋オール讀物』昭和6年6月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第4作「呪いの銀簪」 『文藝春秋オール讀物』昭和6年7月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第5作「幽霊にされた女」 『文藝春秋オール讀物』 昭和6年8月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第6作「復讐鬼の姿」 『文藝春秋オール讀物』昭和6年9月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第7作「お珊文物調べ」 『文藝春秋オール讀物』昭和6年10月号 文藝春秋社



『文藝春秋オール讀物』昭和6年11月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第10作「七人の花嫁」 『文藝春秋オール讀物』昭和7年1月新年号 文藝春秋社





『銭形平次捕物控』第11作「南蛮秘法箋」 『文藝春秋オール讀物』昭和7年2月号 文藝春秋社



『銭形平次捕物控』第12作「殺され半蔵」 『文藝春秋オール讀物』昭和7年3月号 文藝春秋社



銭形平次と錢高組社章 胡堂は、小説の構想を練っているとき、 新聞社の窓の向こうに「錢高組」が見え たと語っている。

社章画像提供:株式会社錢高組 【宝永2(1705)年創業】

平次を救った胡堂の熱意



第6回菊池寛賞受賞記念時計昭和33(1958)年3月受賞

『文藝春秋オール讀物號』が創刊されて1年、売行きは悪くなる一方で、昭和7 (1932) 年には廃刊寸前にまで追い詰められていた。編集長は菅忠雄から永井龍男に代わり、廃刊の危機の打開策として、掲載する小説は全て読み切り小説のみを掲載する方針となった。永井は『銭形平次捕物控』の中断を決め、その旨をしたためた手紙を胡堂に送った。一日置いて胡堂から『銭形平次捕物控』は毎回読切りだから、新方針に適当である。向こう一年間、原稿料なしで良いので引き続き掲載させて欲しいと返事が来た。永井には、この真

剣な手紙から胡堂の熱意が感じられ、『銭形平 次捕物控』は中断せず、引き続き掲載するこ ととした。

その後、『銭形平次捕物控』は第1作目発表から27年、昭和32 (1957) 年まで『オール 讀物號』に連載された。長期にわたり連載を 続けた功績が認められ、胡堂は、昭和33(1958) 年3月に第6回菊池寛賞を受賞した。

昭和33(1958)年『文藝春秋オール讀物』 4月号の菊池寛賞受賞者の紹介で「庶民の英雄『銭形平次』を主題とし、27年に亘り420数篇を創作した功績」が受賞の理由となったことが書かれている。

また、選考過程には「先ず、眼疾の為27年に亘って書き綴られた『銭形平次』の筆を折られた野村胡堂氏、並びに国際ペンマンの日本招聘に粉骨努力された川端康成氏に、それぞれの労を多とする意味で受賞が決定し」とある。



『文藝春秋オール讀物』 4月号 菊池寛賞発表 昭和33(1958)年4月1日発行 文芸春秋社

関連イベント

胡堂講座「銭形平次捕物控朗読会 ~ 金色の處女 ~」

令和3年10月10日(日)午後1時30分~3時

※新型コロナウイルス感染拡大により日程を変更して開催しました。

今年も大塚富夫さん(IBC岩手放送アナウンサー)による「銭形平次捕物控朗読会」を開催しました。 今年は企画展「平次誕生の一年」の関連事業として『銭形平次捕物控』発表90年にちなみ、第1作目「金色の處女」の朗読と、胡堂が銭形平次とともに歩んだ27年の執筆生活を振り返る随筆を朗読していただきました。

大塚さんの朗読は、生き生きと動く登場人物や、場面ごとの情景・緊迫感が伝わり、より深く物語の世界に引き込まれました。朗読の合間には学芸員が、初期の銭形平次作品について紹介し、終了後は企画展担当学芸員が展示の解説をしました。











令和3年度 第1回企画展「平次誕生の一年 ~その男、苦み走った好い男~」展示目録

No.	資 料 名	年 代	備考
1	写真 鈴木彦次郎		画像提供:盛岡市先人記念館パネル展示
2	鈴木彦次郎「まぶたの人(51) 野村胡堂」	昭和39(1964)年10月18日 掲載	岩手日報記事 パネル展示
3	直木三十五書簡 野村胡堂宛	年月日不明	新聞小説の原稿と一緒に届けられ たもの。 原稿料の催促もしている。
4	直木三十五書簡 野村胡堂宛	年月日不明	新聞小説の原稿(最終話まで)と 一緒に届けられたもの。明日にで も原稿料がほしいと催促している。
5	加藤武雄書簡 野村胡堂宛	昭和6(1931)年8月27日付	胡堂からの執筆依頼に対する返事。
6	横溝正史書簡 野村胡堂宛	昭和5(1930)年3月23日付	胡堂への原稿執筆依頼。探偵小説 で、「美人が相当活躍する、動きが 多いもの」という要望。
7	『文藝倶楽部』6月号 野村胡堂「踊る美人像」	昭和5(1930)年6月1日発行	博文館 パネル展示
8	横溝正史書簡 野村胡堂宛	昭和5(1930)年7月3日付	胡堂への原稿執筆依頼。読切の短編小説で、「踊る美人像」が大変好評だったため、同様の派手なものという要望。
9	『文藝倶楽部』10月号 野村胡堂「悪魔の顔」	昭和5(1930)年10月1日発行	博文館
10	横溝正史書簡 野村胡堂宛	昭和6(1931)年1月15日付	胡堂への原稿執筆依頼。探偵小説 で、「奇談クラブ式な猟奇的な読物」 という要望。
11	『文藝倶楽部』春季増刊 探偵小説と滑稽小説 野村胡堂「葬送行進曲」	昭和6(1931)年4月5日発行	博文館
12	野村胡堂『奇談クラブ』	昭和6(1931)年2月25日発行 (再版)	四條書房
13	野村胡堂『美男狩』	昭和4(1929)年3月20日発行	平凡社
14	野村胡堂『美男狩 続編』	昭和4(1929)年9月20日発行	平凡社
15	現代大衆文学全集 続第15巻 野村胡堂『野村胡堂集 身代り紋三』	昭和6(1931)年10月10日発行	平凡社
16	『文藝春秋オール讀物号』4月号	昭和6(1931)年4月1日発行	文藝春秋社
17	『文藝春秋オール讀物号』5月号	昭和6(1931)年5月1日発行	文藝春秋社
18	『文藝春秋オール讀物号』6月号	昭和6(1931)年6月1日発行	文藝春秋社
19	『文藝春秋オール讀物号』7月号	昭和6(1931)年7月1日発行	文藝春秋社
20	『文藝春秋オール讀物号』8月号	昭和6(1931)年8月1日発行	文藝春秋社
21	『文藝春秋オール讀物号』9月号	昭和6(1931)年9月1日発行	文藝春秋社
22	『文藝春秋オール讀物号』10月号	昭和6(1931)年10月1日発行	文藝春秋社
23	『文藝春秋オール讀物号』11月号	昭和6(1931)年11月1日発行	文藝春秋社
24	『文藝春秋オール讀物号』12月号	昭和6(1931)年12月1日発行	文藝春秋社
25	『文藝春秋オール讀物号』1月 新年号	昭和7(1932)年1月1日発行	文藝春秋社
26	『文藝春秋オール讀物号』2月号	昭和7(1932)年2月1日発行	文藝春秋社
27	『文藝春秋オール讀物号』3月号	昭和7(1932)年3月1日発行	文藝春秋社
28	野村胡堂直筆原稿「私の創作歴」	年月日不明	野村胡堂箋6枚 盛岡市先人記念館蔵
29	第6回菊池寛賞 受賞記念時計	昭和33(1958)年3月受賞	
30	捕物作家クラブ会員証(十手)		
31	錢高組社章	w[마르타): 뽀르베르타) 국	画像提供:株式会社錢高組 パネル展示

[※]旧字体は、適宜新字体に直しました。 ※所蔵者名の無記載は、野村胡堂・あらえびす記念館の所蔵資料です。

企画展(第2回)



胡堂の娘 瓊子 ~瓊子の生涯と作品~

胡堂・ハナ夫妻の第三子瓊子(1916-1940)は、父胡堂の文才を受け継ぎ、少女向けの作品を執筆した小説家だった。文学やクラシック音楽などの芸術が身近にあふれる家庭で育った瓊子は、少女時代から執筆活動を始める。児童文学者・翻訳家の村岡花子から小説家として将来を嘱望された瓊子だったが、昭和15(1940)年、病のため、満23歳10ヵ月という若さで帰らぬ人となってしまう。

瓊子の作品は、女学校に通う少女たちを中心に支持を集め、瓊子の 没後も繰り返し出版、再版された。

今展では、直筆の書簡や水彩画、写真パネルを展示し、瓊子の短くも強く生き抜いた生涯を紹介した。また、胡堂へ宛てた瓊子の作品を評価する書簡や、瓊子没後に出版された『七つの蕾』『紫苑の園』をはじめとした作品のあらすじや登場人物を紹介するパネルを展示し、作品に興味を持ってもらい、瓊子の世界に触れるきっかけとなるような展示をした。

開催期間 12月7日(火)~令和4年3月21日(月·祝)84日間 入場者数 349人

来場者の声

・瓊子さんのお人柄や作品についてよく分かりました。素敵な企画展でした。ありがとうございました。

(10代以下、女性)

・瓊子さんの笑顔がとても印象的でした。その分、3人の子を失った胡堂の気持ちがつらいなあと思いながら拝見しました。瓊子さんの作品を読んでみたいと思います。(そう思うような展示でした!)ありがとうございます。

(40代、女性)

・瓊子さんの自筆の手紙、草稿などがもっとあれば良い。

(70代、男性)

・松田瓊子という作家を知ることができた。作家としてもっと活躍しただろうと思うので、早く亡くなったのが悔やまれます。作品も読んでみたくなりました。 (30代、男性)

瓊子の少女時代

瓊子は、野村胡堂・ハナ夫妻の次女として大正 5 (1916)年に生を受ける。5 歳上に姉淳、3 歳上に兄一彦がおり、瓊子誕生の 4 年後には妹の稔子が生まれる。

父胡堂は新聞記者、母ハナは日本女子大附属女学校の教員と して多忙な毎日の中、瓊子は文学やクラシック音楽などの芸術 が身近にあふれる家庭で少女時代を過ごす。

日本女子大学校附属豊明幼稚園から同豊明小学校へ入学するも、兄一彦の療養のため、一家で鎌倉に移住となり鎌倉高等女学校(現 鎌倉女学院)2年に編入する。昭和7(1932)年には再び一家で東京へ転居、それに伴い日本女子大学校附属高等女学校に転校する。この頃、金沢常雄の聖書研究会に初めて出席し、以前から顔見知りだった兄の友人前田陽一の妹美恵子(のちの精神科医・神谷美恵子)と親しくなる。日本女子大学校附属高等女学校卒業後は日本女子大学英文科に入学する。



家族写真 大正 15(1926) 年7月15日 後列左から長女淳、胡堂、長男一彦 前列左からハナ、三女稔子、次女瓊子



日本女子大附属豊明幼稚園保育証書大正11(1922)年3月29日付





野村瓊子画 水彩画「稲村ケ崎風景」 昭和5(1930)年 昭和4(1929)年4月から昭和7(1932)年3月までの 少女時代を過ごした鎌倉の風景。鎌倉の風景やそこで の経験は、鎌倉を舞台に書かれた瓊子の作品「七つの 蕾」に活かされている。



若木里子先生と東五年研究係集合写真 昭和7(1932)年4月20日 後列左から2人目が瓊子

瓊子の執筆活動

瓊子の執筆活動は十代の頃から始まる。離屋や物置き にテーブルを持込んで執筆に励み、主な読者は、妹の稔 子や親類の少女たちだった。

瓊子は十代後半から体調不良が続いたため、療養生活を余儀なくされるが、その間も精力的に小説の創作活動を続けた。胡堂は、瓊子の作品を初めて読んだ時のことを、「実際私はこの時ほど驚いたことは無い。瓊子がこれほどまで書けようとは、全く思いもよらなかったのである」と記している。作品を読んだ胡堂と、胡堂と交流のあった児童文学者・翻訳家の村岡花子の尽力により、昭和12(1937)年、『七つの蕾』が刊行された。装丁は瓊子の希望により、妹の稔子が手掛けている。村岡花子から小説家として将来を嘱望された瓊子だったが、この『七つの蕾』が生前唯一の出版作になってしまう。

瓊子の体調の回復を待ち、21歳の時に兄の親友松田智雄と結婚。結婚後も精力的に執筆を続けるが、再び体調を崩し、昭和15(1940)年に満23歳10ヶ月という若さで帰らぬ人となってしまう。2年3ヶ月の短い結婚生活だった。



『少女への物語 七つの蕾』 野村瓊子著 昭和12(1937)年1月20日発行 教材社 瓊子の処女作にして、唯一の生 前出版作。父胡堂と、序文を寄 せた村岡花子の尽力により、出



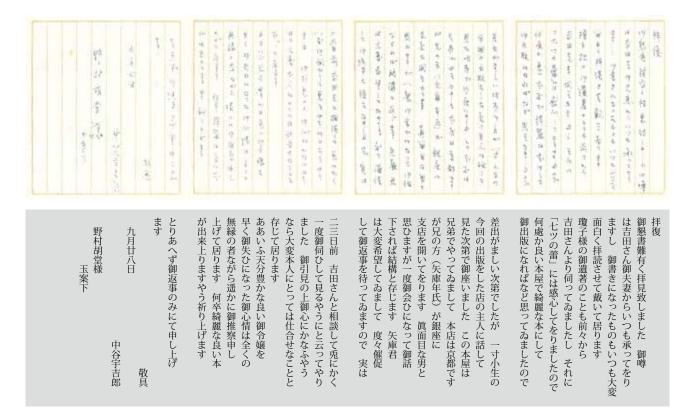
版が実現した。

瓊子の初めての著書『七つの蕾』を前にして(昭和12年) 左から胡堂・瓊子・稔子・ハナ

瓊子、亡きあとに

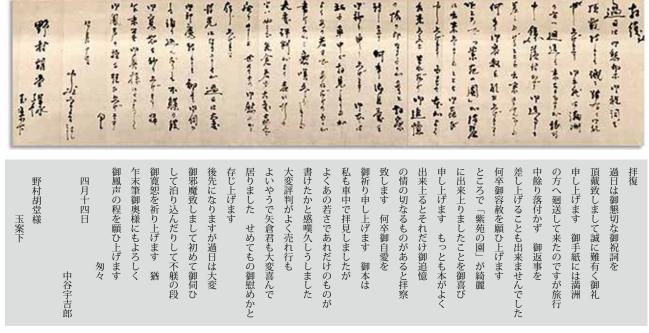
瓊子の死後、雪の研究者中谷宇吉郎の紹介で、『紫苑の園』が甲鳥書林から出版されたのを皮切りに、次々と瓊子の作品が刊行された。胡堂・ハナ夫妻をはじめとした遺族は、瓊子の作品を後世に残すため尽力した。

瓊子の作品は、女学校に通う少女たちを中心に支持を集め、瓊子の没後も繰り返し出版、再版された。特に戦後に 出版されたヒマワリ社版は、当時大人気だった中原淳一による装丁と相まって、少女たちから好評を博した。



中谷宇吉郎書簡 野村胡堂宛昭和15(1940)年9月28日付

中谷が、瓊子の生前出版作『七つの蕾』を評価し、他の作品も出版することを薦め、自身の著作を出版した甲鳥書林(本社京都)を胡堂へ紹介している。



中谷宇吉郎書簡 野村胡堂宛昭和16(1941)年4月14日付

瓊子の死の翌年、中谷の紹介もあり甲鳥書林から『紫苑の園』が出版された。「本がよく出来上 るとそれだけ御追慕の情の切なるものがある」と娘を失った野村夫妻を慮っている。

瓊子が遺したものがたり

瓊子の作品は、少女や子どもを中心とした登場人物たちのテンポよく進む楽しい会話や生き生きとした様子、美しく描写される自然や植物が印象的で、少女時代に過ごした鎌倉での経験や音楽があふれる野村家の様子が垣間見えるような作品が多い。

『七つの蕾』『小さき碧』『サフランの歌』『紫苑の園』等、各作品のあらすじや登場人物と併せて、瓊子の作品に思いをよせる著名人の思い出を紹介した。

『七つの蕾』 鎌倉七里ヶ浜を舞台に、百合子・梢・譲二・ナナの四兄弟の成長と友情を描いた物語。

瓊子の遺した作品は少くないが、瓊子の子供時代の生活をよく採り容れてあるのと、読物としての構成がよく出来ているので、私はこの「サフランの歌」と「七つの蕾」に興味と愛着を持って居る。

野村胡堂



『七つの蕾』 松田瓊子著 装丁 中原淳一 昭和60(1985)年9月1日発行 国書刊行会



『七つの蕾』 松田瓊子著 平成23(2011)年4月20日発行 冬花社

『サフランの歌』 音楽が大好きな昇と馨の兄妹と、バイオリニストを目指す孤独な少年真澄の、音楽と友情の物語。

学校で、みんながまわし読みをしている一冊の本があるのに気づいたのは、かなりの級友が読んでしまってからのことだった。(中略)すてき、というような形容で、だれもがその本を話題にしていた。(中略)

「本」とはいっても、それは謄写版ずりの、たぶんタイプ印刷のものを、手とじにしたものだった。表紙に『サフランの歌』というタイトルと、松田瓊子という著者の名が印刷されていたが、これを書いた松田さんというひとは若いとき亡くなって、お父さんがこの本をつくったという話が「おまけ」みたいに本といっしょにまわっていた。まだ、ほんとうは出版されていないのよ、と物知り顔の友人は、こんなことをつけくわえた。読んだことを、あまりひとにいっては、いけないんですって。(中略)

ピアノかヴァイオリンかというような話に夢中になっている主人公たちや、「サフラン」という、なじみのうすい花の名といっしょに、私たちのなかにあった西洋趣味をたっぷり満足させてくれた。それが、自分たちとおなじ年頃の、おなじ国の少年少女の話として生かされていることが、私を勇気づけてくれた。(中略)「あまりひとにいってはいけない」という秘密の匂いも、『サフランの歌』が私たちを捉えた原因のひとつだった。戦時下といわれた当時、あまりにも西洋じみた『サフランの歌』が、当局の目にふれてはいけないためだったに違いないのだが、隠しごとの好きな私たちは、「秘密」というだけで、じゅうぶん愉しむことができた。

須賀敦子(随筆家、イタリア文学者)



『サフランの歌』 松田瓊子著 装丁 野村稔子 昭和17(1942)年5月20日発行 甲鳥書林



『サフランの歌』 松田瓊子著 装丁 中原淳一 昭和63(1988)年6月15日発行 国書刊行会

『紫苑の園』寄宿舎「紫苑の園」を舞台に、主人公香澄と個性豊かな寄宿生の少女たちとの友情と成長の物語。

そんなある日、僕は姉の部屋にそっとしのびこんだ。本棚から少女小説の典型的な奴を一冊無断で持ち出し、いかにこういった本が下らないかを力説してギャフンと言わせてやろうと考えたからであった。どれにしようかと物色しているうちに、一冊の正方形の小さな本に目が止まった。引き抜いてみると、表紙には当時一世を風靡した中原淳一描く、あの独特の夢見る瞳の少女が可憐な花を手に愁いのポーズで立っていた。裏表紙にはヒマワリが一輪咲いていた。これだ、と心の中で叫んで素早く自分の机へと戻り、意気揚々と読み始めた。ところが、やがて何だか奇妙な気持ちになっていった。徹底的にこきおろそうと読めば読むほど、話にひきこまれていく自分に気付いたからだ。

これはいかんと思いつつ次第に感動の波が心の底からこみあげてくる。ヒロイン香澄を中心にくりひろげられる心清らかな少女たちの物語に、ついには不覚にも涙がこぼれ落ちた。なんと美しくきれいな心の世界なのか!清々しさに心洗われる感動の余韻に包まれ、僕は本を手に茫然としていた。そして一方でミイラ取りがミイラになったことの意外さに愕然としていた。(中略)

感動したばかりか、この本が大好きになったと姉に告白することもならず、また友人に少女小説に心から共感しふるえたと語ることもできず、『紫苑の園』は以来三十数年僕の本棚の奥深くにひっそりと隠されることになった。

児玉清 (俳優、作家)



『紫苑の園』 松田瓊子著 装丁 野村稔子 昭和17(1942)年3月1日三版 甲鳥書林



『紫苑の園』 松田瓊子著 装丁 中原淳一 昭和22(1947)年9月15日発行 ヒマワリ社

『香澄』 主人公の香澄が少女から一人の女性へと成長する様子を描く、『紫苑の園』の続編。

熱烈な信仰の力と、大正インテリ家庭の教養としては 当然の、ヨーロッパ文化への傾倒。絵に描いたようなエ キゾチシズム。それが当時の少女たちには新鮮で魅力的 だった。

私たち少女の間にいつからともなく、松田瓊子が、〈ハヤリはじめた〉。つまり私はリアルタイムで松田瓊子を読んだのだった。すでに作者はその前年に二十三歳と十ヵ月の若さで夭折していた。それも少女読者たちの関心をそそったと思う。(中略)松田瓊子作品はずっとおだやかで思索的で、ほのぼのと人の心をおちつから記させるというものではないけれど、その静謐さが、たぐいもないやすらぎを与えてくれる。本を買えない子は借りて読んだ。古本屋へ買いに行く子もあった。(中略)〈私たちのお姉さま〉の世代の松田さんが、後輩の少女に夢を与えながら自分は夭折してしまったのに少女たちは心を痛めた。そして、もう地上に二度とよみがえってこないであろう楽園――美しい自然、愛と善意にみちた人々、音楽と読書のたのしみ、敬虔な信仰……にためいきついてあこがれた。

田辺聖子(小説家、随筆家)



『香澄 - 続・紫苑の園』 松田瓊子著 装丁 中原淳一 昭和23(1948)年8月20日発行 ヒマワリ社



『紫苑の園/香澄』 松田瓊子著 平成12(2000)年5月1日発行 小学館

関連イベント

企画展「胡堂の娘 瓊子」関連事業 名曲喫茶あらえびすSPレコードコンサート ~K子と野ばら~

令和4年1月29日(土) 午後2時~3時

このSPレコードコンサートは、東京の高田馬場にあった「名曲茶室あらえびす」(昭和63年閉店)をイメージ しながらSPレコードを鑑賞する、1時間だけのコンサートです。

今回は、第2回企画展「胡堂の娘 瓊子~瓊子の生涯と作品~」の関連事業として実施しました。瓊子が執筆し た少女小説に多くのクラシック曲が登場することから、その場面を朗読し、ゆかりの曲をSPレコードで鑑賞しま した。朗読は、紫波総合高等学校の3名にお願いしました。『七つの蕾』『サフランの歌』などの瓊子作品のほか、 胡堂の随筆『K子と野薔薇』を父親胡堂の気持ちになって朗読してもらいました。作品の登場人物と同世代の皆さ んの朗読に、「瑞々しい声の朗読がレコードで聴くクラシック音楽に合っており贅沢な時間を過ごすことができた」

「真剣な姿に元気をもらった」という感想がよせられました。

プログラム

『サフランの歌』より(抜粋)

♬モーツァルト作曲 ピアノ協奏曲第9番「ジュノム」第1楽章

ピアノ:ギーゼキング

指揮:ロスバウト

マルリン・フィルハーモニー管弦楽団

『七つの蕾』より(抜粋)

♬モーツァルト作曲 すみれ

ソプラノ:ギンスター

『紫苑の園』より(抜粋)

月シューマン作曲 歌曲集『ミルテの花』より「ヌスバウム(くるみの木)」

ソプラノ:ファーラー ほか





令和3年度 第2回企画展「胡堂の娘 瓊子 ~瓊子の生涯と作品~」 展示目録

No.	資 料 名	年 代	備考
1	日本女子大学校附属豊明幼稚園保育証書	大正11(1922)年3月29日	加 行
2	日本女子大学校附属豊明小学校卒業証書	昭和3(1928)年3月20日	
3	野村瓊子画 水彩画「稲村ケ崎風景」	昭和5(1930)年	
4	野村胡堂・ハナ書簡 野村一彦・瓊子宛	昭和7(1932)年7月28日付	
5	野村胡堂・瓊子書簡 野村一彦宛	昭和7(1932)年9月1日付	
6	野村胡堂・ハナ・瓊子書簡 野村一彦宛	昭和7(1932)年9月7日付	
	アウレリウス著		5.7-1.1
7	『自省録 -附 ケベスの絵馬-』神谷美恵子訳	昭和24(1949)年4月30日発行	創元社
8	神谷美恵子著『生きがいについて』	昭和41(1966)年4月30日発行	みすず書房
9	瓊子から父胡堂へ宛てた誕生祝いのメッセージカード	昭和10(1935)年10月15日	
10	野村瓊子著『少女への物語 七つの蕾』	昭和12(1937)年1月20日発行	教材社 装丁/野村稔子
11	吉川英治書簡 野村胡堂宛	昭和12(1937)年7月11日付	
12	中谷宇吉郎書簡 野村胡堂宛	昭和15(1940)年9月28日付	
13	中谷宇吉郎書簡 野村胡堂宛	昭和16(1941)年4月14日付	
14	中谷宇吉郎著『第三冬の華』	昭和16(1941)年9月25日発行	甲鳥書林
15	「早春雑感 野村胡堂 二女の本、再版を のびの びと生きたい」岩手日報記事	昭和38(1963)年3月13日付	
16	原田光子書簡 野村胡堂宛	昭和16(1941)年11月10日付	
17	原田光子著『真実なる女性 クララ・シュウマン』	昭和16(1941)年10月20日発行	第一書房
18	原田光子著『クララ・シューマン 一その芸術と生涯― 恋愛編 』	昭和23(1948)年12月30日再版	北斗書院
19	森荘已池書簡 野村胡堂宛	昭和16(1941)年6月9日付	
20	森荘已池著『宮澤賢治』	昭和18(1943)年1月30日発行	小学館
21	松田瓊子著『七つの蕾 (淳一文庫11)』	昭和60(1985)年9月1日発行	国書刊行会 装丁/中原淳一
22	松田瓊子著『七つの蕾』	平成23(2011)年4月20日発行	冬花社
23	松田瓊子著『小さき碧 -第二遺稿集-』	昭和16(1941)年12月5日再版	甲鳥書林 装丁/野村稔子
24	松田瓊子著『お人形の歌』	昭和24(1949)年2月20日発行	新浪漫社浅田書店 装丁/松本かつぢ
25	松田瓊子著『サフランの歌』	昭和17(1942)年5月20日発行	甲鳥書林 装丁/野村稔子
26	松田瓊子著『サフランの歌 (淳一文庫24)』	昭和63(1988)年6月15日発行	国書刊行会 装丁/中原淳一
27	松田瓊子著『紫苑の園』	昭和17(1942)年3月1日三版	甲鳥書林 装丁/野村稔子

No.	資 料 名	年 代	備考
28	松田瓊子著『紫苑の園』	昭和22(1947)年9月15日発行	ヒマワリ社 装丁/中原淳一
29	松田瓊子著『紫苑の園』	昭和31(1956)年12月25日発行	美和書院
30	松田瓊子著『紫苑の園 (淳一文庫12)』	昭和60(1985)年9月1日発行	国書刊行会 装丁/中原淳一
31	松田瓊子著『香澄 -続・紫苑の園』	昭和23(1948)年8月20日発行	ヒマワリ社 装丁/中原淳一
32	松田瓊子著『香澄(淳一文庫23)』	昭和63(1988)年6月15日発行	国書刊行会 装丁/中原淳一
33	松田瓊子著『紫苑の園/香澄』	平成12(2000)年5月1日発行	小学館
34	SPレコード シューベルト「野バラ」		あらえびすコレクション 歌/クルプ ビクター社
35	SPレコード モーツァルト「菫すみれ」		あらえびすコレクション 歌/ギンスター ビクター社
36	SPレコード シューベルト「春に」		あらえびすコレクション 歌/ゲルハルト HMV社
37	SPレコード ショパン「夜想曲 変ホ長調」		あらえびすコレクション ピアノ/パデレフスキー ビクター社

※旧字体は、適宜新字体に直しました。

※展示資料は全て、野村胡堂・あらえびす記念館の所蔵資料です。

企画展(特別展)

胡堂交友録 ~アニメ「啄木鳥探偵處」と実在の文士たち~

令和2年春に放送されたテレビアニメ「啄木鳥探偵處」に登場した実在の文士(石川啄木、金田一京助、江戸川乱歩など)たちと胡堂との、実際の交流を紹介した。なかでも、アニメに登場した実在の文士たちに親しみを感じてもらうため、胡堂と乱歩の書簡のやり取りをスマートフォンのメッセージアプリ風に分かりやすくまとめた紹介パネルが好評だった。ギャラリーではアニメイラストのパネル展示や紹介映像を流し、受付ではアニメ公式グッズの販売も行った。特別展や4館合同スタンプラリーを開催したことで若い世代が来館し、胡堂を知ってもらうよい機会となった。





開催期間 5月18日(火)~10月31日(日) 145日間 入場者数 1,104人



岡山儀七(不衣)書簡 野村胡堂宛

昭和11(1936)年4月8日付

胡堂は、昭和11 (1936) 年公開の映画『情熱の詩人啄木 ふるさと編』を見ての感想を、報知新聞紙上で3回にわたって連載した。その記事を読んだ岡山の感想などが記されている。書簡の中では、「あの時代だって啄木のほんたうに畏敬した先輩はあなた様であったと存じます。」と、胡堂と啄木の関係性に言及している。

^{あかやま ふ い} 岡山不衣 (1885-1943)

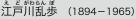
本名は儀七。花巻出身。石川啄木の親友。俳人であり、岩手毎日新聞の記者。胡堂の盛岡中学の後輩にあたる。



平井太郎(江戸川乱歩)書簡 野村胡堂宛

昭和17(1942)年4月22日付

胡堂と乱歩は黒岩涙香(ジャーナリスト/小説家)のファンだった。互いが涙香の翻案小説本の収集をしていることを知り、乱歩から本の交換を提案。この書簡には、乱歩が所蔵している涙香の本のなかで、交換しても良い本が記されている。書名上の「✓」は胡堂が書き入れたものと思われる。



小説家。本名平井太郎。三重県出身。日本で初めて本格推理小説を書き、その発展に尽力した。少年探偵団シリーズなど代表作多数。報知新聞の編集局相談役だった胡堂が、編集に携わっていた雑誌に乱歩を起用したことが交流のきっかけとなった。

令和3年度 特別展 胡堂交友録 ~アニメ「啄木鳥探偵處」と実在の文士たち~ 展示目録

No.	資 料 名	年 代	備考
1	岡山儀七(不衣)書簡 野村胡堂宛	昭和11 (1936) 年4月8日付	巻紙
2	野村胡堂 「映画化された啄木と実際の啄木〔上〕〔中〕〔下〕」	昭和11 (1936) 年4月1~3日 掲載	報知新聞記事 パネル展示
3	金田一京助書簡 野村胡堂宛	昭和22(1947)年3月7日付	原稿用紙「青磁社」2枚
4	吉井勇書簡 野村胡堂宛	昭和24(1949)年3月25日付	葉書
5	吉井勇書「尼寺の みほとけなれば なよやかに 秋さむくとも笑みてましませ」		掛軸
6	平井太郎(江戸川乱歩)書簡 野村胡堂宛	昭和10(1935)年12月12日	便箋1枚
7	野村胡堂『新篇 銭形平次捕物控』	昭和12(1937)年12月4日発行 (第5版)	千代田書院
8	平井太郎(江戸川乱歩)書簡 野村胡堂宛	昭和17(1942)年4月22日付	便箋7枚
9	野田良吉訳 涙香小史閲 『奇中奇談 幽霊塔(前編)』	明治34(1901)年1月1日発行	扶桑堂
10	野田良吉訳 涙香小史閱 『奇中奇談 幽霊塔(後編)』	明治34(1901)年5月17日発行	扶桑堂
11	野田良吉訳 涙香小史閲 『奇中奇談 幽霊塔(続編)』	明治34(1901)年9月15日発行	扶桑堂
12	弔辞「噫 野村胡堂翁」	昭和38(1963)年4月19日	盛岡市先人記念館所蔵
13	写真(弔辞を述べる金田一京助)	昭和38(1963)年4月19日	
14	金成まつ筆録 金田一京助訳注 『アイヌ叙事詩 ユーカラ集Ⅲ』	昭和38(1963)年2月25日発行	三省堂
15	写真(胡堂との思い出を語る江戸川乱歩)	昭和38(1963)年	_
16	江戸川乱歩 「野村胡堂通夜でのあいさつ」 (一部抜粋)	昭和38(1963)年	パネル展示
17	写真(胡堂の通夜に多くの人が集まっている様子)	昭和38(1963)年	
18	横溝正史 「金田一耕助誕生記」(一部抜粋)	平成8(1996)年5月25日発行	パネル展示 『金田一耕助の帰還』収録 出版芸術社

※所蔵者名の無記載資料は、野村胡堂・あらえびす記念館の所蔵資料です。

■ 4館合同企画「啄木鳥探偵處」スタンプラリー in 岩手

令和2年春に放送されたアニメ「啄木鳥探偵處」にちなみ、盛岡市の石川啄木記念館、盛岡市先人記念館、盛岡でがみ館と当館の4館で、スタンプラリーを開催しました。各館を見学しながらスタンプを集めると豪華景品がもらえる企画です。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて1年越しの開催となりましたが、待ち構えていたファンも多く、県内外からの参加者がありました。(4館の参加者合計970人:内当館入館者577人)また、7月11日(日)には4館の担当学芸員が集まり、アニメや実在した文士たちについて語るトークイベントを開催。当館からはアニメ関連特別展を担当した千葉学芸員が登壇しました。

開催期間 令和3年6月1日(火)~10月31日(日)

※同名小説を原作とし、石川啄木と金田一京助が難事件を解決していく物語。 アニメにはオリジナルキャラクターとして、胡堂も登場しました。



トークイベントに登壇した4館の学芸員。 左端が当館の千葉学芸員。

新型コロナウイルス感染症への対応

- 1 中止又は延期した行事
- (1) 記念館事業
- ① 6月 当館運営審議会 → 中止
- ② 9月5日(日) 銭形平次捕物控朗読会 → 延期 10月10日(日)実施
- ③ 9月26日(日) 4 館合同企画「啄木鳥探偵處」スタンプラリー in 岩手 → 10月31日(日)まで延長
- ④ 9月30日(木) 特別展「胡堂交友録~アニメ「啄木鳥探偵處」と実在の文士たち~」→ 10月31日(日)まで延長
- ⑤ 10月 第38回野村記念講座 → 中止
- ⑥ 3月12日(土) 第3回あらえびすリレーコンサート → 中止
- (2) 協力会自主事業
- ① 9月18日(土) キッズ・フレンドシップ・フェスティバル2021 → 中止

寄付者ご芳名

【寄付者ご芳名】(寄贈年月日順)

ご寄付いただきました方々に心より御礼申しあげます。

(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

大坪光政様(雑誌 / 滝沢市)、猿渡重達様(書簡・冊子 / 東京都)、岩動昭様(書籍 / 紫波町)、中村孝子様(DVD/奥州市)、髙橋力様(書籍 / 奥州市)、平谷美樹様(著書 / 金ヶ崎町)、片倉邦雄様(冊子 / 盛岡市)、八重嶋勲様(書籍 / 紫波町)、志村洋一様(書籍 / 神奈川県)、小野寺文雄様(SPレコード / 宮古市)、松田順子様(書籍 / 盛岡市)

入館者・運営費・レファレンス及び収蔵資料利用

(1) 入館者・あらえびすホール貸館状況

	7	有料入館者数(人)	無料入館者数 入館者総数	ホール貸館	
	一 般	子ども	団体一般	(人)	(人)	(件)
令和2年度	1, 149	49	62	3, 571	4, 831	41
令和3年度	1, 557	189	29	4,680	6, 455	50

(2) 運営費 (千円)

	運営事業費	施設管理費	合 計
令和2年度	13, 712	40,004	53, 716
令和3年度	13, 951	21, 545	35, 496

- (3) レファレンス対応件数 8件
- (4) 収蔵資料利用許可件数 15件(83点)

特定非営利活動法人野村胡堂・あらえびす記念館協力会

野村胡堂・あらえびす記念館協力会は、平成22年4月に特定非営利活動法人としての認証を受け、平成28年4月から野村胡堂・あらえびす記念館の指定管理者に選定され、記念館の事業運営及び施設管理を行っています。胡堂を顕彰する活動を通して「胡堂・あらえびす」の功績を広く地域に知らしめると共に、文化振興の拠点としての機能を維持し、自主事業を通じて広い年代の方々に芸術・文化に触れる機会を提供しています。

令和3年度主な自主事業実績

項目名	主 な 内 容	開催月日	参加者人数
コンサート	読売新聞共催あらえびすSPレコードコンサート	R3. 10. 31	49 人
	田中美沙季ソプラノリサイタル	R3. 11. 23	60 人
	バスツアー 「奥州市 正法寺の秘宝と江刺蔵町歩き」	R3. 7. 12	24 人
	めざせ!昆虫ハカセ	R3. 7. 17	33 人
イベント	夏休み子ども映画上映会	R3. 7. 27 ~ 31	120人
	ふしぎの世界 宇宙と科学	R3. 8. 12(宇宙) R3. 10. 30(科学)	112人
	冬休み子ども映画上映会	R4. 1. 5 \sim 10	93人

■施設の利用案内

1 開館時間

午前9時~午後4時30分 ただし、入館は午後4時まで

2休館日

毎週月曜日(祝日の場合その翌日) 年末年始 (12月28日~1月4日)

3入館料

個人入館料:一般 /310円 小・中・高生 /150円 団体入館料:一般 /260円 小・中・高生 /100円

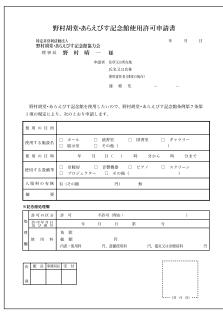
※団体入館料は20人以上

5 各種申請手続き及び様式

■あらえびすホール申請手続き

野村胡堂・あらえびす記念館条例第7条(入館等)に基づき、占有的に使用又は利用する場合は、使用許可申請書(別紙様式1)を記念館に提出すること。

様式1



備考 用紙の大きさ 日本工業規格 A 4

6 交通の御案内

JR東北本線日詰駅から車で約6分 JR東北本線紫波中央駅から車で約10分 JR東北新幹線盛岡駅から車で約40分 JR東北新幹線新花巻駅から車で約25分 東北自動車道紫波I.Cから車で約15分

4あらえびすホール

■概要

収容 最大120席(イスは可動式)187平方メートル 設備 ピアノ1台、可動式ステージ、スポットライト、

大型スクリーン、プロジェクター使用可能

利用時間 9:00~17:00

(事情によっては21:00まで利用可:要相談)

■使用料(1時間毎)

区分	入場料		無料		有料	
内訳	申請者住所又は職場		紫波町内	町外	紫波町内	町外
	普通使用料		280円	840円	420円	980円
	設備使用料		523円	523円	523円	523円
	特別使用料	冷房料	320円	320円	320円	320円
		暖房料	292円	292円	292円	292円
冷暖房無しの場合			800円	1,360円	1,240円	1,500円
夏期:冷房使用の場合			1,120円	1,680円	1,260円	1,820円
冬期:暖房使用の場合			1,090円	1,650円	1,230円	1,790円

※合計使用料額は10円未満切捨て

■入館料等の減免及びその手続き

野村胡堂・あらえびす記念館条例第12条(入館料等の減免)に基づき入館料等の減免等を申請する場合は、入館料減免申請書(別紙様式2)を記念館に提出すること。

様式2



備考 用紙の大きさ 日本工業規格 A 4

7案内図



令和3年度 野村胡堂・あらえびす記念館 館報

発 行 日 令和4年7月31日

編集・発行 特定非営利活動法人野村胡堂・あらえびす記念館協力会

(野村胡堂・あらえびす記念館指定管理者)

 $\mp 028 - 3315$

岩手県紫波郡紫波町彦部字暮坪193-1

TEL 019-676-6896 • FAX 019-676-6897

印 刷 有限会社 紫波印刷